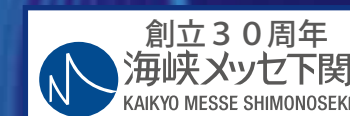


VOL. **78**
2026 7...9



contents

ジェトロ山口

釜山派遣レポート

YMFGアジアニュース

発行 (一財) 山口県国際総合センター

日本貿易振興機構(ジェトロ) 山口貿易情報センター

内容についてご意見、ご質問があれば、下記までお問い合わせ下さい。

(一財) 山口県国際総合センター

山口県下関市豊前田町3-3-1

TEL083(231)5778 FAX083(231)5787

メッセ海外通信 INTERNATIONAL NEWS KAIKYO MESSE SHIMONOSEKI

(一財) 山口県国際総合センター・日本貿易振興機構(ジェトロ)山口貿易情報センター

MESSE

親日国インド～政治・宗教・慣習からひも解く～

前号「親日国インド～政治・歴史・宗教からひも解く～」はいかがでしたでしょうか？

「初めて聞く話ばかりで勉強になった」「たまたま購入したベンガルボダイジュに深い意味があることを知らなかった。ガンジー像は見に行ってみたいと思った！」「興味深い内容だがインドはまだ遠く感じる」などの感想をいただきました。有難うございました！

本号では、引き続き政治と宗教（山口県内にも関連の像などがまだまだあります）、そして宗教と関係する慣習についても、筆者がインド駐在中に深く感心したことも新たに紹介させていただきたいと思います。

■昭和64年 1 月に 3 日間の国喪

昭和64年は西暦で1989年です。読者の中には「（ご自身が）生まれる前」という方もいらっしゃるでしょう。昭和64年1月7日、昭和天皇（裕仁天皇）が崩御されました。世界各国が弔意を示す中、インドも弔意を示すとともに、3日間の国喪も実施しました。昭和は先の大戦から戦後復興などの期間も含まれますが、これらのことに関し日本を評価するインド人は少なく、3日間の国喪実施になったと考えています。

■仏教を通じた日印の文明的・精神的な絆

話を現代に戻します。令和8年（2026年）7月1日から3日の日程で、高市総理大臣がインドを訪問、モディ首相との日印首脳会談などが行われました*¹。両首脳による会談では、「AI分野における協力に関する共同声明」「次世代モビリティ・パートナーシップに関する協力文書」の歓迎とともに、2027年の「日印国交樹立75周年」に向け、記念行事や地方自治体間交流を通じ、国民間の交流を深めていくことで一致、マンガ、アニメ、ゲーム等の交流を深めていくことについても意見交換され「日印国交樹立75周年を記念する協力文書」が発表されました*²。同文書の6番目には「仏教巡礼イニシアティブ」が記述されています。具体的には「日本の仏教代表団をインドに招き、重要な仏

教遺跡を巡る精神的な旅を行う。こうしたイニシアティブは、日印の文明的・精神的な絆を浮き彫りにするとともに、日本からインドへの仏教観光を促進するものとなる」というものです。また、高市総理大臣との共同声明で、モディ首相からは冒頭に「高市首相は日本初の女性首相であるだけでなく、先見の明に富み、広く尊敬される指導者でもあります。さらに、彼女は奈良県出身であり、同県はインドと日本が共有する仏教遺産における重要な中心地となっています」と述べました*³。これらのことは、日印両国の首脳が両国間には仏教を通じた文明的・精神的な絆があることを認識、両国民にそのこと示したいとの意思があったと思われます。

■ヒンドゥー教と仏教の共通点など

筆者は前号で「ブッダは、ヒンドゥー教*⁴では宇宙を維持・管理するヴィシュヌ神の化身とされています。」と述べました。筆者は約5年4か月間、インド・ニューデリーに駐在し、公私ともに多くのインドの方との出会いがありました。ヒンドゥー教徒からは「日本人は仏教徒。ブッダはヒンドゥー教の神なのでインド人と日本人は兄弟のようなものだ」ということを少なからず言われました。日本人全員が仏教徒ではないとはいえ、神仏への祈りや相手への感謝の際に手を合わせる、ということは日常的に

あるかと思います。ヒンドゥー教徒も同様ですし、他に「因果応報」「輪廻転生」も共通です。

また、筆者は前号で「仏教にはヒンドゥー教由来の神々が存在します。例えば、如来などを守る四天王（多聞天（毘沙門天）など）や弁財（才）天など多数あります。」と述べました。如来には薬師如来もありますが、山口市にも薬師堂（湯田温泉）や瑠璃光寺で薬師如来像が安置されています。

そして、瑠璃光寺境内には金毘羅神社もあります。金毘羅（こんぴら。宮比羅（くびら））



筆者が2026年5月23日に撮影。わかりにくい場所にあります。幸運にも近所にお住まいの方にご案内いただきました。その方からは、岩国市出身で山口市にある家に嫁がれて60年、毎朝近くの自宅マンションから薬師堂に手を合わせている、とのとても素敵な自己紹介もいただきました。



筆者が2026年5月23日に撮影。

ケガをした一匹の白狐、温泉と薬師如来像に関するマンホールが湯の町通りに「其ノ一」から「其ノ六」まであります。



薬師如来像。筆者が2026年5月23日に瑠璃光寺で撮影

は、薬師如来十二神将の筆頭で梵語（サンスクリット語）のクンビーラに由来とされます。クンビーラはガンジス川のワニを神格化したヒンドゥー教の水の神です。

さらに、場所を下関市に移します。下関市役所の裏手に油掛大黒尊天があります。大黒天は、



瑠璃光寺境内の金毘羅神社。筆者が2026年5月23日に撮影

*¹外務省「高市総理大臣のインド訪問（概要）」（2026年7月6日）

*²外務省「日印国交樹立75周年協力文書」（2026年7月6日）

*³インド首相府「PM's press statement during the joint press statement with the Prime Minister of Japan」（2026年7月2日）

*⁴外務省「インド共和国（Republic of India）基礎データ」（2026年7月16日）2011年インド国政調査によるとインド国民の79.8%がヒンドゥー教徒



油掛大黒尊天（長門国分寺）。筆者が2026年7月19日に撮影。ジェットロ山口勤務をきっかけに友人となった方からの情報提供で訪問

ヒンドゥー教の神マハーカーラ（偉大なる黒の意。シヴァ神の異名）に由来しています。特に油掛大黒尊天像は、植物油をかけて祈願する珍しい神仏像で、全国でも10か所くらいだけのようです。

これらのことは、我々の日常生活で意外に仏教やヒンドゥー教由来のものが身近にあることが感じられませんか？

■ヒンドゥー教と「カースト」

中学校の社会科の教科書に「カースト制度」が記載されていた記憶がありますが、現在でも同様でしょうか？特にインドで生活したことがある方の中には「カースト」によることを経験、または聞いたことがある、ということがあるかと思います。

カーストは、ポルトガル語の「Casta」に由来、「血統」や「身分制度」を指します。カーストによる差別は、紀元前1500年頃にアーリア

民族がインドに進入を開始、原住民を征服していく過程で成立したとされます。アーリア民族が原住民より上位に位置するもので、肌の色や血統による差別が、時の流れとともに制度化（後述の4つの階層（職業）とその下）、また、職業ごとにカーストの中が細分化、それは「サブカースト（ジャーティ）」と呼ばれ、その数は数千とも言われています。なお、カースト階層は、それぞれ「ブラーミン（司祭・僧侶）」「クシャトリア（王族・武士）」「ヴァイシャ（平民）」「シュードラ（隷属階級）」「ダリット（不可触民）」です。

カーストによる差別は、独立後のインドでは違憲とされていますが、一部が慣習としてまだ残っていることもあるようです。例えば、特に結婚は同じジャーティ、農村では結婚に加え食事なども同じジャーティ、ということを聞いたことがあります。

なお、筆者は前号で「ヒンドゥー教、シク教、仏教およびジャイナ教は、バラモン教の後継になります。」と述べました。カースト制度はバラモン教に由来し、ヒンドゥー教に受け継がれました。

一方、IT（情報技術）エンジニアなどの新しい分野の職業は、もともとの出身のジャーティに関係なく、採用も昇進も能力主義とされています。また、インドでは、カースト制度による差別是正のため、ダリットに加えシュードラも大学入学や公務員への就職に優遇措置が取られるようになりました。

■インド進出日本企業が変えた1つの慣習

筆者がニューデリーに駐在中の2002年1月、タミルナドゥ州にあるインディア・セメント社とマドラス・セメント社を訪問させていただく機会がありました。それぞれの経営者との話で最も印象的だった共通点は「インドの製造業の

現場で、全員が同じ作業服を着用し、社員食堂で一緒に食事することは、スズキ株式会社によるインド進出^{*5}がなければあり得なかった。お蔭で社員全員に一体感が出て生産性・効率性・品質が向上した」とされたことです。前述のとおり、異なるジャーティでは、同じ場所で同じものを食するなど、基本的にあり得ないことです。スズキ株式会社のインド現地法人マルチ・ウドヨグ社（当時）の場合は、鈴木修代表取締役（当時）が毎月現地出張するたびに他の日本人出張者と現地駐在員が同じ作業服を着用、ワーカーが利用している食堂の列に並び、自分の番が来るまで待つことを半年くらい継続、それにより、カーストが上のインド人マネージャーなどもワーカーが利用する食堂でワーカーの列の後ろに並び、同じ食堂で食事をするようになったようです。

なお、インド自動車工業会（SIAM）が2026年4月14日に発表した2025年4月から2026年3月までの乗用車国内販売台数は、マルチ・スズキ・インドシア社がトップで約40%を占めたとしています。^{*6}

■まとめ

「親日国インド」について、今回は政治・宗教・慣習の観点からひも解いてみましたが、いかがでしたでしょうか。昭和天皇の崩御に際し3日間の国喪、仏教を通じた両国民の絆、ヒンドゥー教と仏教の共通点やインド進出日本企業を変えたインドの1つの慣習を共有させていただきました。

なお、ジェトロは、先述の高市総理大臣の2026年7月の訪印に併せ「日印経済フォーラム」^{*7}をニューデリーで主催しました。同フォーラムには、高市総理大臣、モディ首相も出席、日本企業150社以上、インド企業80社以上も参加し、エネルギー・重要鉱物、経済安全

保障・イノベーション・人材、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」と「メイク・イン・インドシア・フォー・ザ・ワールド（Make in India for the World）」・「日印アフリカ協力戦略」、地域連結性を通じたインド北東部開発について、両国経済界によるパネルディスカッションが行われました。また、スズキ株式会社が「カルコダ工場開所式」を行いました（オンライン中継）。これにより、インドが掲げる「メイク・イン・インドシア」政策への貢献が期待されています。さらに、今次訪問を機に取り交わされた129件の両国企業間等の協力案件も発表されました。このように、両国間は政治・経済・ビジネス面でも連携が加速、「心理的に遠い国」ではなくなりつつあるといえないでしょうか？

また、インドの経済やビジネスに関し幅広く知りたい方は、ジェトロのホームページ^{*8}からご確認いただけますので、是非、ご利用ください。

（TEL：083-231-5022）

（ジェトロ山口 藤井）

^{*5}現在のマルチ・スズキ・インドシア社で当時はマルチ・ウドヨグ社。スズキ株式会社が1983年3月にインド国営企業マルチ・ウドヨグ社と四輪車の合弁生産と基本合意

^{*6}ジェトロ「ビジネス短信」添付資料「表2 2026年3月の主要メーカー別乗用車国内販売台数（出所）インド自動車工業会（SIAM）」

^{*7}外務省「日印経済フォーラム」（2026年7月2日）

^{*8}ジェトロホームページ（インドーアジア・国・地域別に見るージェトロ）

釜山派遣レポート

下関市市長公室国際課
(釜山広域市派遣職員)

原 田 亜 太 留

「モーター」から「モビリティ」へ～自動車業界の変化を見る～

皆様、こんにちは。釜山広域市派遣職員の前田です。

6月26日から7月5日にかけて、釜山広域市の主催で、2年に一度開催されている釜山国際モビリティショー（BIMOS 2026）が釜山広域市海雲台区にある国際展示場BEXCOにて開催されました。

現在、自動車業界は大きな変革期を迎えています。その理由は、動力源の変化によります。自動車は長らく内燃機関を動力源として発展してきました。しかしながら現在、業界全体で向かっている方向は「電動化」です。内燃機関ではなく、電力により駆動するモーターを動力源とした電気自動車（EV）が多く販売され、今後その販売比率はさらに高まると考えられます。

しかしながら、その変化のスピードは未知数の部分も存在します。代表的な例として、本田技研工業株式会社が2026年3月期の決算において、1957年の上場以来初めて最終損益で4,239億円の赤字となりました。これは、米国での関税政策の変更に伴うICE／ハイブリッド車の事業への影響や、EV開発へのリソースシフトの影響によるアジアでの商品競争力の低下により、直近では四輪事業の収益性が悪化したこと、加えて米国では化石燃料に対する規制の緩和やEV補助金の見直しなどにより、EV市場の拡大スピードが鈍化していること等を背景として、米国で生産予定だったEV3車種の開発・発売の中止などを決定し、これらの生産に使用予定だった有形固定資産・無形資産の除却損失および減損損失、販売や開発中止に伴う追加支出に関する損失などを計上したためであると説明されています。

それでも、自動車業界全体として、「電動化」が大きなキーワードであり、業界全体のあり方が大きく変化していることは間違いありません。それは、こうした行事の名称の変化を見ても明らかです。これまでは「モーターショー」と呼称されてきた行事は、ここ数年で世界各国において「モビリティショー」や「オートショー」という名称に変化しました。自動車そのものを意味する「モーター」から、より幅広い対象を意味する「モビリティ」への変化。単に自動車のみならず、電動キックボードや空飛ぶクルマなど、移動手段や運搬手段、そしてこれらを媒介して実現したい社会の姿など、多様な提案がなされます。

今回開催された釜山国際モビリティショーでも、自動車の展示を中心としつつ、電動キックボードや電動ボート、電動バイクなども併せて展示され、こうした考え方を色濃く反映した内容となりました。また自動車も、展示車両の多くがピュアEVでした。何より、既存の自動車メーカーのみならず、EVを主力商品とするメーカーの展示もかなり大きな規模で実施されていたことが大変印象的でした。韓国内では、日本と比較して明らかに電気自動車が多く走行している姿を目にするのですが、こうした市場環境や国として今後向かっていく方向性がはっきりと示されていると感じられる展示会

でした。



BYDの展示ブースの様子。



電動バイクの展示。

YMFGアジアニュース

山口銀行大連支店

田村 卓也

越境E C・デジタルで小さく海外：最初の設計図（商品・価格・物流）

1. はじめに

中国越境E C市場は、世界最大級のE C市場を背景に成長を続けています。中国ではE C利用人口が9億人を超え、2024年の越境E C輸出入総額は5,210億ドル（約83兆円）に達するなど、中国経済を支える重要な貿易インフラとなっています。

中国政府は2016年に越境E C制度を整備し、輸入手続きの簡素化や税制優遇措置を導入しました。これにより、企業は比較的低リスクで中国市場へ参入できるようになっています。日本商品の強みを生かしながら、SNSと連動した販売戦略を構築することが成功のポイントです。本稿では、中国E C市場と越境E Cの現状について紹介します。

2. 中国越境E CとE C市場の特徴と課題

中国越境E Cは、関税0%、増値税・消費税の優遇、簡便な輸入手続きなどが特徴です。この制度は、海外商品の輸入促進による内需拡大と、非正規ルートでの輸入抑制を目的に導入されました。また、中国のE C市場は世界最大規模で、世界全体の約50%を占めています。利便性の高いプラットフォームや信頼性の高い決済環境を背景に発展しており、中国系プラットフォームは低価格・短納期・SNS活用を強みに、欧米や東南アジアでも存在感を高めています。

中国国内でのE C事業推進にはいくつかの課題があります。第一に、日本商品の優位性の低下で

す。中国企業の品質向上やマーケティング力強化により、化粧品・日用品・食品分野では中国ブランドがシェアを拡大しています。第二に、物流の課題です。配送遅延や返品対応は顧客満足度に影響します。さらに、中国国内では即時配送競争が激化しており、越境E Cは配達所要時間の面で不利な状況にあります。第三に、中国市場への理解不足です。中国ではSNSや口コミ、インフルエンサーの影響が大きく、日本と同じ販売手法では成果が出にくいいため、現地に適したデジタルマーケティングやパートナー連携が重要となります。



越境E C商品の説明をする
万衆雲倉：連総経理

3. EC関連の取組状況について

近年のEC市場では、SNSやライブ配信を活用したコミュニティ型ビジネスが重要となり、『商品売る』から『世界観を売る』時代へ移行しています。大連保税区内に大型販売施設を有する「万衆雲倉」によると、ECサイトでは写真だけでなく動画を活用し、ブランドストーリーを重視した販売が主流となっています。ライブコマースも視聴しやすい時間帯に配信するなど工夫されています。また、同社はサイト閲覧数より購入履歴を重視した販売戦略を採用しています。輸出事業にも注力しており、Amazonなど海外プラットフォームを活用した販売では、輸入より輸出の方が収益化しやすい状況とのことです。

4. インフルエンサーの活用について

中国EC市場の開拓では、インフルエンサー（网红）の活用が重要です。特に若年層では、SNSとECが一体化した購買行動が定着しています。一部企業では、自社でインフルエンサーを育成し、ニッチ市場の開拓を進めています。例えば、中国在住日本人によるライブ配信を通じて、日本商品への信頼感を背景に、「日本語が分かる中国人」という特定層を取り込むことで差別化を図っています。

5. おわりに

中国では物流網が発達しており、日常的にインターネットで買い物をする消費者が増えています。中国のEC市場は巨大な成長機会を有する一方、成功にはSNS活用やブランド構築、インフルエンサーの活用など、中国市場に適した戦略が欠かせません。

また、日本企業にとっては、中国市場だけでなく、中国系プラットフォームを活用したグローバル展開も重要性を増しています。越境ECは世界市場へ直接アクセスできる手段として、今後も成長が期待されます。

山口フィナンシャルグループでは、中国ビジネスに関するご相談を承っております。ご興味のある方は、お気軽にお取引店までお問い合わせください。

【参考文献】

・日本貿易振興機構HP

：中国における越境ECの概要と留意点：中国向け輸出

<https://www.jetro.go.jp/world/qa/J-210602.html>

：価格競争から価値競争へ、越境ECの新時代（世界）

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2025/0901/04152f287f67e8bc.html>



ライブコマースの様子
(万衆雲倉提供)